

針葉樹会報

第 136 号
2016 年 7 月



目 次

松本暮らし	有賀 盈
丹沢大山懇親山行	岡田 健志
残雪の八方尾根から唐松岳	中村 雅明
古希での単独行回帰	藤原 朋信
松本移住の記と岳沢合宿報告	佐藤 周一
進め！ 川口探検隊 紅葉酒編	外池 武司
「お伊勢さん」の土地から	田形 祐樹
南アルプスの山とリニア新幹線	宗像 充
学生の活動記録 新人歓迎会山行	
甲州高尾山	小久保 剑
川苔山	坂本 遼
夜叉神峠・高谷山周辺の登山道整備	
三月会通信	
編集後記	

表紙写真＝Passer 氷河の山々 撮影・岡田健志

32 26 25 23 22 20 18 17 11 8 5 4 2

発行日 2016 年 7 月 12 日

発行者 針葉樹会報
(会長 竹中彰)

印刷所 ヤマノ印刷株

針葉樹会報
第 136 号

編集人 小島 和人
〒241-0817
横浜市旭区今宿 2-60-1
会報幹事／小島和人、井草長雄
川名真理

松本暮らし

有賀 盈（昭36年卒）

松本に住み始めてこの7月で満6年になる。先日会報幹事の小島さんから会報に何か書けとの電話があり困ってしまった。8年前新宿駅頭で低血圧発作をおこして失神昏倒、左眼球破裂という怪我で右目しか見えなくなつた。それ以来、山歩きからは遠ざかつた生活なので、会報にふさわしい材料は皆無にひとしい。一旦はお断りしたのだが小島幹事の説得に負けて松本の日々の暮らしの中で見えている山々の遠景を記すことでの容赦いただくことにした。

どうに描かれていくような田舎の生活に漠然とした憧れを抱いていたことも一因だった。實際の生活は普段は文字通り独居老人で、WiFiが時々東京からやつて来る時以外、ほぼ完全な自活だ。三度の食事の献立・炊事・後始末、掃除、洗濯、風呂等々、それに家庭菜園の畠仕事もあるから、日常の家事労働はそれに要する体力といい時間といい半端ではない。夢に描いた晴耕雨読には程遠いのが現実だ。

そういう毎日の日課は朝の1時間強のウォーキングに始まる。決まつたルートが二つあつて一つは自宅から西へ歩いて30分弱にある城山公園を往復するもの。この丘の上に

ある展望台の60段の階段を上り切つて西を見ると、眼下に安曇野が広がりその向こうに長い山並みが南から北まで続いている。晴れた日はそれがいつぺんに目に飛び込んできて爽快な気分になる。左端から乗鞍、大滝、蝶、

真正面に常念、横通、大天井、有明、燕、餓鬼、蓮華、爺、鹿島槍、五竜、唐松とつづき右端は白馬三山で終わる。

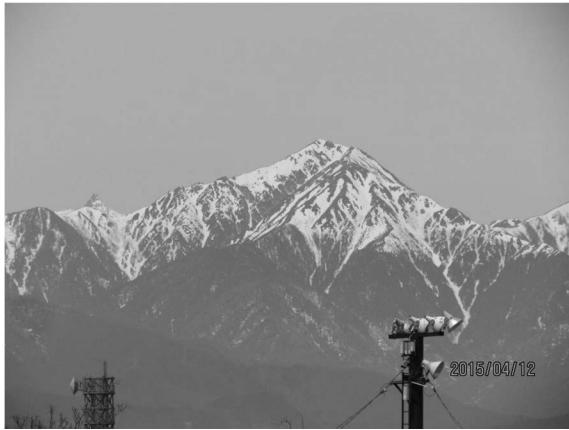
中央線塩尻駅から松本に向かつて一つ目の駅を広丘といい、母の実家がこの駅のそばにあり戦争中1年半此處に疎開していた。それ以来信州は僕にとって第二の故郷になつている。齡70を過ぎて松本に住む気になつたのはこういう縁があつたからだが、陶淵明の漢詩、「園田の居に帰る」とか「帰去來の辭」なるのに気が付いた。私の真後ろの美ヶ原の王

ヶ頭の上から朝日が射しそれが安曇野をおおう白いスクリーンにあたつて黄色い輪の中に私の影が映つているのだつた。ブロッケン現象だ。

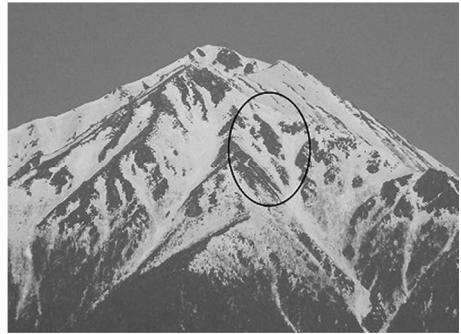
実はブロッケン現象を見たのはこれが初めてではない。大学4年の秋、同期の永井、三股等と北鎌尾根から槍に登つた時この現象が起つた。地形や太陽光、雲海といつたいくつかの自然条件がタイミングよく同時発生しないと起らなければ、そう簡単には見ることが出来ないだろう。それを2度も見たのだから運が良かつたとしか言いようがない。

常念岳は松本市内ならいつどこに居ても見える美しい山だから、松本に育つた人にとって故郷の山といえばこれになるだろう。毎年春になると僧が手を合わせて立つている雪形が現れる。はつきりした形で判りやすく見飽きない姿なので、常念坊と呼ばれて親しまれている。

常念岳の向こう側すなわち飛騨側には穗高から槍への山々があるわけだが、残念ながら松本からは見えない。唯一三角錐の形をした常念の左裾に槍の穂先がわずかに覗いているだけだ。しかし中央線で特急あづさが塩尻駅のホームに入ると左斜め方向に穗高岳の峨々たる稜線が突然現れる。他を圧してすごい迫力だ。この景色は電車が塩尻駅から次の広丘



展望台からの常念岳



常念坊の雪形

駅に近づく約1、2分の間車窓から楽しむことが出来る。また塩尻駅から車で10分ほど郊外にどうせなら塩尻駅から車で10分ほど郊外に出ると、町のビルや電線に邪魔されることなく、心行くまでこの眺めを堪能することが出来る。

鹿島槍は目の前の常念よりかなり遠くになるが、それでも双耳峰から山腹にかけての山容は堂々として貴重があり美しい。特に真冬の早朝、雪化粧した鹿島槍が朝日を浴びて輝く姿は、たまにしか見られないせいもあるが寒さを忘れさせるほど見事だ。

城山の展望台から見て斜め左方向には、乗鞍岳のヴォリューム感のある姿が横たわっている。松本からはかなり遠いはずだがその存在感は他に引けを取らない。特に真冬になると山頂から裾まで豊富な雪で覆われて純白に輝くさまは実にきれいだ。まるやかな山容が豊満な女体を描いた一幅の画を思わせて美しい。

朝のウォーキングのもう一つのルートは、家から北に20分ほど行った辺りから始まる田園地帯を往復するもの。市街地にしてはかなり広い田園で米と麦（その後にそば）を交互に植える区画とリンゴ、ブドウ、ナシなどの果樹園とがあり、一画に市営の陸上練習場がある。この練習場で健康維持のため一周400メートルのコースを歩いて5周している。東には美ヶ原の王ヶ頭が迫り、その右の谷を挟んで鉢伏山から高ボツチ山へのなだらかな稜線が続く。西は常念岳が低い丘の上に見えるだけあとは低山が続くのみ。

このコースは春が楽しい。空には燕が勢よく舞い、カッコウの鳴き声があちこちから聞こえる。地上ではリンゴやナシなどの花が咲き始め、苗を植えた田んぼで蛙が鳴き始める。まさに自然が生気に満ち溢れ、一ちらまでも元気になつた気がする。

松本では20年ほど前から毎年夏約1か月間音楽祭が開かれる。Seiji Ozawa Matsumoto Festival（旧称サイトウキネン松本フェスティバル）という。その事務局が素人を集めた混声合唱団を組織して、毎年この音楽祭の前座として松本城公園でコンサートを開いている。私もこの合唱団に加入して今年で6年目になるが、コンサートの締めくくりに合唱団の持ち歌である「故郷」を歌うことになつている。公園内に作られた仮設の舞台で、松本城の天守閣とその左に見える常念岳を背景にして、思い切り声張り上げてこの歌を歌うと素晴らしい気分の高揚を覚える。どうやら常

日頃見える常念岳が、いつの間にか私の「故郷の山」になりつつあるのかも知れない。

丹沢大山懇親山行

山行幹事・岡田 健志（昭42年卒）

4月3日、今回の懇親山行は、老はオーショーン会（1956年卒）のお三方から、若は新2年の学生まで20名と多くの参加を得て盛大に行われた。一つには参加者の体力に応じて、A班からC班までのルートが選べる山域を選んだこと、二つには、下山後の懇親会場をまえびろに予約する必要があつたことから、たとえ山登りができるような悪天になつても懇親会だけは開催する、と前喧伝したことが功を奏して上記のように大変盛大な会となつたと思う。※参加者のあとの数字は卒年（西暦）

A班 ヤビツ峠（金毘羅尾根経由）→大山見晴台→日向薬師（バス）→伊勢原駅

メンバー＝佐藤（力）（65）、佐藤（久）（66）、吉沢・岡田（67）、中村（68）、山崎（特）、内海（3年）、工藤・坂本（2年）

B班 ヤビツ峠（イタツミ尾根経由）→大山見晴台→阿夫利神社下社→大山ケーブルバス停（バス）→伊勢原駅

メンバー＝佐薙・松尾・鈴木（56）、本間・小野（65）、池知（66）、宮武（70）

C班 阿夫利神社下社参詣（大山詣）

D班 伊勢原駅前「GEN」での懇親会参加

メンバー＝上原（58）、仲田（61）

A班は8時に小田急線秦野駅に集合し、バスでヤビツ峠まで。ヤビツ峠を9:05に出発したが、この時点で小雨。水の枯れた小さな沢沿いに諸戸森林事務所まで歩く。金毘羅尾根経由の登山道はここにある諸戸神社の脇をとり杉林の中を登る。（諸戸神社発9:35）

このルートは、「山と高原地図」（昭文社）には記載されていないが、「東丹沢登山詳細図」（吉備人出版）にはちゃんと記載されている。（金子晴彦さん、守屋親子の踏査・作成された地図ですよ）

このルートは、急ではあるが、石がゴロゴロしているわけでもないので、比較的歩きやすい。ただイタツミ尾根との合流点に近くな

ると、水が流れる溝のようなところを行くようになつていて、これが滑りやすい。登つている間はずーっと冷たい雨は降り止まず、ポンチヨを着用していてもかなり濡れた。

A班より1時間遅れでヤビツ峠を出発したB班とはイタツミ尾根との合流点付近で一緒に、昼食を一緒にしようというのが計画だつた。しかし、この日の天気ではそれもかなわず、そこから5分ほど登つた大山の頂上で昼食をとりながらB班が到着するのを待つことにした。（頂上着11:35）

頂上には阿夫利神社の奥の院があり、その物陰は冷たい雨に濡れるのを防ぐことができる。頂上まで無事に来ることが出来たお礼を奥の院に述べたあと、その物陰に入つてそれが持参した昼食を摂る。

そのうちにB班も登つて来て、同じように昼食を摂る。ところが、濡れた体に冷たい雨風に冷え切つたA班は、B班の食事の終了を待つまでもなく、予定の見晴台経由日向薬師のルートをあつさりと諦め、あたふたと参詣道を下山し始める（12:20）。佐薙さんから出ていた宿題「日向薬師ルートの九十九曲がりは実際にはいくつの曲がり角があるでしょうか？」については、次回に持ち越しになつてしまつた。

参詣道といえ、段差の大きな石組みの道は、

雨の中、慎重に一步一歩を踏み出さないと転びかねない。下社に着くころには、膝が笑い出していた。(下社着13:20)

下社のすぐ下の急な階段のところで、登つてくる人がいる。上原さんであった。予想はしていたが、C班の人と会うことが出来たので、大変幸せに感じた。同じC班の仲田さんは下社から見晴台まで歩かれたとのこと。このルートはB班が下山路として予定していたが、B班も予定を変えて参詣道を下つたので、下社へ帰り着いて漸く合流できたらしい。

一方B班はA班に遅れること1時間、ヤビツ峠を出発(10:00)。この班は、「高齢でも体の具合が良くなくても山歩きが出来るし楽しもう」ということを狙いとした。雨の中を無理せずゆづくりと登つた。大山頂上着(12:00)。残念ながらA班と大山山頂同着はならなかつたが、所期の目的は十分達成できたのではないか、と思う。

昼食もそこそこに、先に出発したA班を追つて下山開始(12:40)し、大山ケーブル駅に着いたのは15:20であった。

さて、懇親会である。

本間さんは、たいていの下山場所に馴染みの店をキーとしておられる。小田急沿線でい

うと、大倉尾根を下山してきた場合は大倉バス停の「さか間」、松田駅前の「若松食堂」、そして伊勢原駅では今回の「GEN」。もつとも、これらの店は、さらに年上の先輩から本問さんが引継ぎ、今や我が物顔とか。

「GEN」に、山行には参加できなかつた小島・高崎さんもはせ参じての大宴会。高崎酒造の「しま安納」一升瓶が2本空いた。

丸山さん(58)もA班に参加のご予定でしたが、足のお怪我のため断念されました。次回は是非ご参加ください。

次回こそ、青空の下での山行を計画しますので、更に多くのみなさまにご参加いただけますように。そして、足腰を鍛えておいて下さるようお願いいたします。

今年も岡田さんの音頭で話が進みました。4月の三月会で五竜・唐松山行の大筋が固まりました。五竜山荘の5月連休の営業は5月7日までなのでそれに合わせて遠見尾根を登り、五竜山荘に泊まり、翌日五竜岳を往復後、唐松岳頂上山荘まで縦走し、唐松岳往復。調子が良ければ八方池山荘まで下り、翌日八方尾根を下る案です。

この案を岡田さんが関係者にメールで発信した処、吉沢夫妻、中村が手を挙げ、昨年の5月連休山行と同じメンバーとなりました。佐藤さんからの返信で会報102号に「自身が書かれた山行記（『残雪の唐松から五竜』）が載つてることを教えていただきました。2003年5月中旬に単独で、初日は八方池山荘に泊まり、2日目に八方尾根を登つて唐松岳に登頂後、五竜山荘まで縦走し、五竜岳

2013年4月には岡田さんと2人で再び赤岳、2014年3月に吉沢正さんと3人で阿弥陀岳、2015年3月に高崎俊平さんと3人で硫黄岳～天狗岳縦走と春の八ヶ岳の雪山登山を続けました。2014年からは5月の連休の後半の北アルプス残雪の山行を始めました。その年は岡田さんと2人で爺ヶ岳・鹿島槍登頂、2015年は吉沢夫妻と4人で蝶ヶ岳～常念岳～大天井岳～燕岳縦走と統一、残雪の山仲間が増えました。

2013年4月には岡田さんと2人で再び赤岳、2014年3月に吉沢正さんと3人で阿弥陀岳、2015年3月に高崎俊平さんと3人で硫黄岳～天狗岳縦走と春の八ヶ岳の雪山登山を続けました。2014年からは5月の連休の後半の北アルプス残雪の山行を始めました。その年は岡田さんと2人で爺ヶ岳・鹿島槍登頂、2015年は吉沢夫妻と4人で蝶ヶ岳～常念岳～大天井岳～燕岳縦走と統一、残雪の山仲間が増えました。

を往復。3日目に遠見尾根を下山されました。
「適度に緊張感のあつた残雪と岩稜漫歩の、静
かで快適な山行」と結びに書かれています。

天気予報、バスの予約、吉沢さんの帰宅希望
(7日)等、諸般の状況から最終決定したコー
スは佐薙さんの前掲コースと同じものになり
ました。5日朝、バスで新宿を出発。昼過ぎ
に白馬八方に到着、ゴンドラ＆リフトで八方
池山荘に上がつて泊まり、6日八方尾根を



八方池ケルンから 五竜岳と鹿島槍 (岡田撮影)

登つて唐松岳登頂後、五竜小屋まで縦走し泊
まり。7日五竜岳登頂後、遠見尾根下山の計
画でした。

バス、山小屋の予約が済み、明日は出発の

前日に吉沢さんの風邪の具合が悪いので夫妻
が不参加となりました。結局、一昨年の鹿島
槍と同じ、72歳コンビの山行となりました。

なお、八方尾根から唐松岳行は岡田さんは
2011年5月中旬に単独で八方尾根から
登つて唐松岳頂上山荘に2泊して唐松岳、五
竜岳(頂上直下まで)に登つて以来5年ぶり。
中村は大学3年10月(1966年)の八方尾
根から唐松～五竜～鹿島槍山行以来、実に50



上ノ樺手前にいたライチョウ

年ぶりです。

▽メンバー

岡田健志(昭和42年卒)、中村雅明(昭和43
年卒)

▽行程 (タイムは岡田さんが記録)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----------------|-------|-------------------|----------------------|----------------|----------------------|--------------|-------------|------------------------|--------------------------|-------------|-------|--------------------------|-------|-----------------|-------|------------------|-------|---------------------|
| 5月5日 | バスタ新宿 (8:15) | 発 | | 双葉
S A (10:06～20) | | 梓川S A (11:30～
45) | | 大町駅 (12:37) | | 白馬八方バ
スター・ミナル (13:30) | | | | | | | | | |
| 6日 | ロープウェイ駅発 (8:00) | | 八方池
山荘発 (8:35) | | 八方山ケルン (9:00) | | 公衆トイレ (9:15) | | 八方池 (9:35) | | 上ノ樺 (10:25) | | 丸山 (昼食: 11:55
～12:15) | | 唐松岳頂上山荘 (13:06) | | 唐松岳頂上 (13:36～50) | | 唐松岳頂
上山荘 (14:10) |
| 7日 | 唐松岳頂上山荘 (7:00) | | 丸山
(7:40) | | アイゼンを脱ぐ (8:20) | | 八方池 (8:37) | | 八方池山荘 (リフト最
上駅9:18) | | 白馬駅 (10:15) | | | | | | | | |

●5月5日 (木) 晴れ

バスタ新宿から8:15発の京王高速バス(4
850円)で出発しました。バスタ新宿は4
月4日にオープンしたばかりで、新宿駅南口
から直ぐ近くで以前より便利になりました。
4日に吹き荒れた強風は收まり、五月晴れの
絶好の入山日です。まだ連休中なのに予想外

にバスはガラ空きです。車窓から見る新緑の山々を眺めながらゆつたりした気持ちで白馬に向かいました。道路の混雑もなく予定通り13:30白馬八方バスター・ミナルに着きました。ところが白馬五竜辺りから強まつた風がよ

り強まつてしました。ゴンドラが朝から動いていないと知り、まさかの事態にあせりました。動く見込みがないので、止む無く歩いて八方池山荘に上がるを考え、山荘に電話して状況を聞いたところ、風速30m以上の風が吹いているので歩くのも危険だと諭されました。万事休す。

今日は麓の白馬村泊まりを余儀なくされました。案内所で紹介された宿（「岳栄館」）は値段も手頃（8200円／1泊2食）で、料理も味良し、ボリュームも十分の良い宿でした。夕食まで時間があるので宿で教えてもらつた白馬連峰の写真スポットである「白馬大橋」まで散歩しました。橋からの小蓮華山、白馬岳、杓子岳、白馬鎧ヶ岳の展望が見事です。最初稜線にかかる雲も次第に切れ青空をバックに白馬連山がくつきり聳えています。帰りがけに五竜、鹿島槍も良く見えました。

宿に帰つて夕食前に入つた風呂で、東京野歩路会（創立が一橋山岳部と同じ大正11年！）の2人と一緒になりました。6人パー

ティーで専用バスに乗り合わせて夜通し走つて早朝、白馬に着いたが強風の為足止めを食つてずっと時間をつぶしているとの事でした。本来の予定では今晚は唐松岳だった由、自分達より気の毒でした。

宿の主人は昔、キレット小屋で働いていたことがある山のプロで、夕食後自分が撮ったパノラマ写真、後立山の話をたっぷり聞かせてもらいました。今年は異常に雪解けが早く、スキー場は3日に営業終了、八方尾根は樂に登れるでしようとのことでした。

●5月6日（金）曇り

8:00始発の1番のゴンドラに合わせて7:30宿を出ました。20分で八方駅（標高770m）着。既に20人以上並んでいました。ゴンドラリフト「アダム」、クワッドリフト（4人乗り）2本乗り継いで30分で八方池山荘（標高1830m）着。山荘付近は雪が無くしばらく夏道が続きましたが、公衆トイレ（冬期閉鎖中）を過ぎると雪道になりました。緩やかな雪道なのでアイゼン無しで歩けました。

雪に埋まつた八方池手前は白馬三山、不帰ノ嶮、唐松岳の絶景スポットでした。大きな山岳景観板がありピークを同定できます。1967年3月（大学3年）の春合宿は杓子岳双子尾根から唐松、白馬三山でした。それ以降訪れたことがなかつたので感慨深く眺めました。

頂上から不帰キレットに続く険しい稜線、天狗の大下りは1967年の春合宿で天狗山荘から10時間30分かけて唐松岳を往復した（帰路は風雪）加藤、宮武両君の苦闘を思い起

した。特に双子尾根は10日間過ぎた尾根で、小日向のコル手前にC1、ジヤンクションピーク先にC2、快晴の1日、存分に白馬三山を歩いたことなど思い出すことが多々ありました。

唐松岳頂上小屋は、僕らの様に前日麓で足

止めを食った人が多かった為か 20 数名が宿泊していました。1泊2食付き980円に

しては食事がいま一つでした。部屋は寒々と

して毛布が無く重い布団だけなので夜の寒さ

が心配でしたが、布団を2枚かけありつたけ

着込んで帽子までかぶって寝たので寒くあり

ませんでした。寝る前に、明日好天であれば

五竜山荘に泊まり8日に遠見尾根を下ろうと相談していましたが夜中に雨風が強くなりま

●5月7日（土） 小雨後晴れ

5:30頃起床し山荘の外を見ると小雨、風も相当強く吹いています。午後から風が強まる予報も考え、五竜山荘に向かうのをあきらめ下山することに決めました。雨具上下、スペツ、アイゼンの完全武装で7:00に山荘を出発、稜線下の岩稜帯を下り終えると雨は小降りになりました。風も弱くなりました。

昨日登つて勝手知つた道を順調に下つて8:20八方池手前でアイゼンを脱ぎました。そりや山荘で一緒だった長崎から来た3人パーティが追いつき、リフト＆ゴンドラが動いていることを教えられ安心しました。9:10八方池山荘着。直ぐにリフト、ゴンドラを乗り継いで八方駅に下り、山行を終了しました。

八方駅に着くと雨が止み薄日が差してきました。

した。タクシーで白馬駅へ向かい 10:15 着。

大糸線は本数が少なく次の松本行は 12:26。

たっぷり時間があるので、人影がないのをこれ幸いと待合室のストーブガードに雨具等の濡れものを広げました。但し、火が付いていないので水気を取るのみ。昼食はタクシーの運転手に教えてもらつた駅から飯森方面に歩いて5分ほどの「そば神」で美味しいザルそばを食べ山行を締め括りました。

今回は、思ぬ強風、雨の為、八方尾根から唐松岳を往復したに留まり、五竜岳に登り遠見尾根を下ることが出来ませんでした。特に遠見尾根からカクネ里への下降ルートを自分で確認したかったので残念です。来年の5月連休後半に遠見尾根の大遠見山 or 西遠見手前にテント（BC）を張り、五竜岳登頂、カクネ里往復などの雪辱山行をやりたいと思います。

岡山の母が、その急先鋒ですが、「お前も歳だから運動量を落とせ、危ないことはするな」というのが周りからの一致したアドバイスです。確かに最近疲れやすいし、回復も遅くなりました。とはいっても、登り残した山の多さ（現時点で300以上）に比べ、残された年月は多くないので、体力・気力が少しでもある限り山行回数は落とさず、新規の山を目指した

いというのが今の気持ちです。膝や腰には疲労がたまつてはいるものの、幸いまだ使用可能なので今年一杯100日登山を継続して、体調等を見極めたいと思います。

古希での単独行回帰

藤原 朋信（昭44年卒）

昨年、針葉樹会での継続課題である「中村短大」と「北岳バットレス」を終えて、再び気ままな山行を計画できるようになります。また本年二月に数えの古希を迎えて、これまでの山登りスタイルの手直しを迫られる区切りの年でもあります。

年頭に計画しながら、5年來繰り越していく魚沼三山の八海山・中岳、奥秩父の和名倉山、四国の三嶺、兵庫の扇ノ山、会津の荒海山、東北の恐山等々が今年こそ実行する山であります。

ですが、取り敢えず関東地方で、公共交通機関利用ではアプローチが遠く、過去計画倒れに終わった日帰り可能な山々を、古希の歳の登山対象にして計画の練り直しです。地図を精査して出発点と到着点を決めるのが最初の課題になります。アプローチのバスもありあてにせず歩くか、最悪タクシー利用も考えると、後は実行あるのみで気力の有り無になります。

千葉の家を早く出ても、登山地の歩き始めは10時過ぎです。日が長い春でないと、とても予定コースをこなせません。以下1~7の山は3月末から4月末、1ヶ月間での日帰り単独行による新規登山の記録です。1~5の三石山までは青春18切符を利用しました。

季節が桜の時期と重なり、長いアプローチも飽きることなく歩けました。最初の計画から実現迄5年以上かかった山々だけに、どの山も登頂後は予期した以上の達成感が得られました。先ずは順調なスタートをきれたと安堵しています。

1 3月29日 御坂山地・蛾ヶ岳
身延線・市川本町駅より往復。 10:50~
15:00

甲府駅2分の乗り継ぎで、身延線に乗り換え、予定通り市川本町駅に着きました。いつもながら家をでてから5時間です。山の中より往復の乗車時間が長いのですが、中央線は車窓からの展望が良く飽きることがないので助かります。

登り始めて、1時間半で四尾連湖に着きました、事前に抱いていた観光地イメージと違ひ、山の中の静かな湖でした。案内板に富士八湖との表示がありました。五湖以外は知らないので、富士山検定試験合格者に聞いてみようと思いながら通過です。

頂上に辿りつくと大展望が待っています。富士・八ヶ岳・奥秩父と四方良く見えますが、蛾ヶ岳ならではの見ものは白銀に輝く白峰二山です。昨年まで通ったバットレスも確認し、来し方にしばし思いを馳せました。

2 3月31日 御坂山地・糸迦ヶ岳・大柄山
石和温泉駅からバスで檜峰神社前下車。檜峰神社→神座山→春日山→滝戸山→石和温泉駅 10:25~18:25

前回の糸迦ヶ岳で通過した神座山まで登り返して、鳥坂峠への道に入ります。中村さんと登山継続中の御坂山地主稜に並行して走る稜線ですが、道はあまり良くありません。山梨100名山に選定されている春日山・滝戸山ですが車で上がってきて、それぞれ近くの峠から1時間以内で往復するのがパターン

1月に中村さんと登りに来て、雪のあまりの多さに撤退した糸迦ヶ岳に再トライです。季節が2ヶ月進んだだけで同じコースが全く違う景色になります。バス停から歩いて1時間の檜峰神社まで車で入れるので結構ハイカーもいるようです。

しかし、糸迦ヶ岳は岩山で近郊の山には珍しくアルペンの趣が満載の山でした、大柄山からの下りにトビス峠付近から眺めた糸迦ヶ岳は槍ヶ岳と見まごうばかりです。針葉樹会諸兄で、糸迦ヶ岳に未踏の方がおられれば是非一度登頂下さい。手近な所でアルペンムードの山を楽しめます。もちろん展望は四方何ともえぎるもの無い絶景です。

で、それ以外の路を通しで歩く人は少ないようです。

滝戸山からの下りが、今回のポイントです。車道の開通で消えかかっている昔ながらの尾根路を探しながらの下山です。悪戦苦闘しながらも何とか麓の金比羅神社に辿りつきました。ここから石和温泉駅へはバスが無いので2時間歩いて終了です。山の麓は桜と桃でピンクに染まっています。ここから振り返つて見る釈迦ヶ岳は大層立派な山でした。

4 4月8日 久慈・月居山～男体山

袋田駅から袋田の滝経由～月居山～男体山
～西金駅 10:35～15:45

5 4月10日 身延・三石山

身延駅から往復。 12:25～16:25

久慈男体山は以前真夏に水郡線の西金駅から往復し熱射病でふらふらになりながら登った山として記憶しています。今回は袋田の滝が目的で、本来冬の氷結した滝が狙いだつたのですが、春の滝見も良かろうと計画しました。袋田の滝は中国人が一杯で、人込みが苦手な私は、早々に月居山への階段に逃げ込みます。

階段を登るに連れて、滝上の景観が開けます。日本ではあまり見ない丘陵地帯に牧場が広がる伸びやかなジオラマ風地形で、これを見ただけで来た甲斐があつたと感激物です。

また、思いもかけず月居山の頂上斜面はカタクリの花が一面咲いていました。来年カタクリの時期に妻を連れて行く最有力候補地が見つかり、月居山から男体山への縦走路も静かな気持ちの良い道だったので、穴場を沢山見つけた幸せな気分で帰りました。

穴場といえば水郡線の車窓から見る、久慈川の清流もなかなかのものです。

1月に八溝山へ行つた際下車した、常陸大子での浅瀬が続く久慈川も忘れられない風景になつています。

学生の頃、過激派組織が西丹沢で軍事訓練をやっていた関係で、西丹沢は避けていたのか？社会人になつてから後もなじみの無い地域になつてしまっています。

過去の記録と記憶が曖昧で登つたのか登つてないのかハッキリしないのも北アルプスの蓮華岳と、ここ西丹沢の畦ヶ丸山です。東京近郊の良き山は、大体複数回登つているので、記憶にも刻み込まれていますが、畦ヶ丸山は記憶にありません。今回の計画では菰釣山がメインですが畦ヶ丸山に抜ければ問題は解決します。ただコースタイムが長いので、平野から山伏峠までは車道を歩いて時間短縮を図ります。

身延駅を下りて身延山と富士川をはさんで対面する三石山へ向かいます。登山に許された時間は4時間です。日本の典型的な山村であり、かつ実際は消滅して殆ど残っていない集落がここには残っていました。大崩の集落は上5軒、下5軒で最奥の家の傾斜地にしだれ紅桜が満開の花を咲かせていました。

6 4月16日 丹沢・菰釣山～畦ヶ丸山

富士山駅からバスで山中湖平野下車。(ノハ)から菰釣山～畦ヶ丸山～西丹沢自然教室へ縦走。 10:45～16:45

間に余裕が出来たのでベースを守つて畦ヶ丸山に出ました。頂上直下に避難小屋がありましたが、小屋を見た瞬間40数年前に同じ光景を見たというデジヤブ状態です。

畦ヶ丸山頂は馬酔木が小さな釣鐘型の花をつけっていました。過去～現在～未来と「時間と存在」の哲学的思索にしばし浸れるのも誰も居ない山頂だからでしょう。

7 4月29日 丹沢・畦ヶ丸山～鳥ノ胸山

御殿場線谷峨駅からバスで大滝橋下車。

こから畦ヶ丸～大界木山～鳥ノ胸山～道の駅道志～道坂トンネル～富士急谷村町駅。

10:40～18:25

鳥ノ胸山は「トンのムネ山」と読むらしいのですが、車利用の場合413号線の道の駅道志に駐車して、そこから往復するか、道志の湯から南側の浦安峠に出てそこからの往復になります、適度なハイキングコースになります。

ところが車無しだとバスが走っていないので出入りが全くお手上げです。長年の机上登山では梁川駅から立野峠を越え、更に道志山脈の朝日山を越えて入る案を検討するのです

が、どうにも時間がオーバーします。

前回山行時、畦ヶ丸山の手前の大界木山近くにテープと踏み跡を見つけて、そこから浦

安峠に下れる事が判明しました。それなら

畦ヶ丸側から入れば鳥ノ胸山行は成立するのではないかと実行計画を詰めて、西丹沢から入り、道坂トンネル越えで都留市に抜ける案になりました。結果、谷村町駅着は予定通りでしたが、道の駅道志までは1時間先行したもの、道の駅～道坂トンネル～谷村町駅の車道に3時間超かかり、それまでの貯金時間と体力を全て使い果たした山行になりました。

松本移住の記と岳沢合宿報告

佐藤 周一（昭54年卒）

はじめに

その後は、岡山の妻の実家（建設業）に雇ってもらいましたが、それも昭和末期のプラザ合意を契機とした円高不況で受注激減し、2年足らずで廃業へ。以後、岡山で地元中小企業のサラリーマンとして転職を繰り返しつつ家族5人の生活を支えるのがやつと。たまに家族でキャンプに出かける（レジャーとしては安価だったので）のが精一杯で登山を楽しむ余裕などありませんでした。

それが10年前、知人の岡山の弁護士から紹介されたのが縁で、当時の小泉政権下で司法制度改革の一環として設立された日本司法支援センター（法テラス）に中間管理職として

松本移住の記

小生は、大半の会員諸氏が有する輝かしい経歴・職歴とは無縁な人生を送つてきました。振り出しこそ山岳部2年先輩の浅田充会員の勧誘で川崎製鉄㈱（現在のJFE）に就職し、スタートを切ったのですが、東京本社に転勤後、うつ病を発症。今でこそ病気自体が「市民権」を得て一般的な理解や治療法の開発も進みました。しかし、当時は過重な業務量との因果関係が考慮されることなく、転勤と結婚が重なったことや性格など個人的な問題と切り捨てられ、1年余の休職期間を経て退職を余儀なくされました。

採用され、地方事務所の事務局長職を岡山→東京→静岡→大分と転勤を重ねながら務めてきました。

最後の大分は、私には初めての九州勤務で、別府・湯布院といった温泉地の印象しかなかつたのですが、赴任してみると、これが意外に個性的な山々に恵まれた登山好適地であることを知りました。週末には、朝起きて天気が良ければ車を1時間も走らせる由布岳や久住連山の登山口に着けるので、ピーカクの年には年間52週のうち36週は山に入っていました。下山後はどこでも、様々な泉質を誇る源泉掛け流しの温泉が気軽に利用でき、「一村一品」で知られた新鮮で美味しい地元食材を安価で楽しむという、極楽のような登山環境でした。

大分の山は、大きく分けると別府市内にある鶴見岳や由布岳など東部火山郡、北側には福岡県境の英彦山群、西側は熊本県境に及ぶ久住山群、そして南には祖母山や傾山など宮崎県境に跨る祖母山群の4つに区分されます。いずれも標高こそ1700m台までですが、現在も活発な火山活動中の山もあれば、深い原生林に覆われた静謐な山々、奇岩や巨大な一枚岩で構成される山など、地形及び生態系の面でも多様性が見られるほか、国東半島の山々のように平安時代から修験者の行場

として連綿と千日回峰的な行事が伝わっているところもあれば、江戸時代の禁教令下で密かに信仰を守ったキリストンを隠した山々など、文化史的な面からも興味が尽きません。

そんな大分での勝手気ままな登山三昧の中、徐々に目前に迫った定年退職後のプランについて考えるようになりました。偶々、大分の山仲間と韓国・濟州島のハンラサン（韓国最高峰）に登った際、現地ガイドを務めてくれた若い女性が日本の山岳をしばしば訪れていること、夏でも残雪のある3千メートル峰は韓国人登山者には大きな魅力であることなどを話してくれました。

また、還暦近くとなり頻繁に開かれるようになった東京・墨田区の出身高校の同窓会でも、「山に行きたいので、どこか連れて行って」と声を掛けられることが多くなったこともあり、そうだ！ 定年後は山岳ガイド、それもリタイアした中高年と韓国人ら外国人を顧客に特化したいと考えるようになりました。

そこで、あらためて山岳ガイド資格について調べてみると、現在、国内で通用している資格には、民間資格ながら『公益社団法人日本山岳ガイド協会』（以下、協会とする）が所管する資格検定試験があることを知ります。このほかに富士山や立山のガイド組合や、屋久島町が認定する登山ガイド資格等もありま

すが、エリアを限定しない資格としては協会認定資格が唯一のもののようです。

とは言え、欧州アルプスの山岳ガイドのような国家資格ではないため、一般登山者がガイドを伴うことを国や自治体が推奨するような法制度等になつておらず、現実にガイド業だけで食べていただける者は極めて少数なようですが、私の場合、先に掲げた夢を実現するには、自然生態系の基礎知識等も含め体系的な学習や体験を踏まえることが大事と考え、資格取得を目指すことにしました。

実は先ほどから一般的な呼称として「山岳ガイド」と表記してきましたが、協会認定資格は3種類あり、以下のような職能別区分資格となっています。

① 自然ガイド

国内の里山や高原等において自然・歴史・民俗等を解説するガイド行為を対象とし、ピーカクハントが主たる目的の登山ガイド業務は行わない。

② 登山ガイド

国内の整備された一般登山道でのガイド行為を対象とする。難路とされる岩稜や急峻な雪稜を持たない範囲をガイド出来る。

③ 山岳ガイド

国内で季節を問わず、バリエーションル

トを含む全ての山岳ガイド行為およびインストラクター行為が出来る。

以上の3区分ですが、それぞれに「ステージ」と呼ばれるグレードが2～3段階で設定されており、初級資格を取得したのち、1年程度のガイド実務を経験してからでないと上級グレードの受験資格が得られない仕組みとなっています。

また、山岳ガイド上級資格者には、「国際山岳ガイド」受験が可能となりますが、こちらは国際的な技術基準を満たす必要があるなど、協会が実施する試験のみでは認定できないことになっています。

そこで私は、中級資格である「登山ガイド・ステージⅡ」を当面の目標としています。「山岳ガイド」には憧れますし、積雪期のバリエーションルートは、体力の維持すら困難な現状では無理だと思いますし、ガイドを希望する市場も小さいと考えます。というわけで、これからは「山岳ガイド」あらため「登山ガイド」資格について記していくます。

「登山ガイド」資格取得には、筆記試験とその合格者に対して課せられる実技検定試験（二次試験）の全てに合格する必要があります。二次試験は、無積雪期および積雪期のルートガイディングと自然解説技術を問うもの

や、安全管理技術を問うものなど年間5回、のべ3週間ほどの実技講習を伴う内容となっています。従つて、早くとも「登山ガイド」資格が取得できるのは来春ということになります。今年の試験日程は、5月末の予備講習会のほか、6月下旬に筆記試験、9月上旬と下旬に無積雪期の実技講習会、来年1月と2月に積雪期分の講習会が予定されていますので、その合い間には、松本在住の利点を活かして、登り残している信州の山々を歩いてみたいと考えています。

さて、その松本移住に至る件ですが、1年余前の昨年4月下旬、八甲田山方面に山スキーに出かける兵藤先輩（昭52卒）たちの壮行会を兼ねて浜松町のホルモン焼屋で、若手OB（と言つても平均年齢60弱くらい）で呑んだことがあります。その席上で、私が定年後の計画について話し、居住先として松本市内を検討中との話を出したら、兵藤さんから「実家が空き家状態になつているので使ってくれても良い」との話が飛び出し、渡り舟とはのことと、あとはトントン拍子に松本市のJR村井駅近傍のご実家を賃借することになつた次第です。

今年3月末での定年退職後、大分から一旦自宅のある岡山県倉敷市に戻つて移住の準備を済ませ、4月下旬から約1週間かけてのん

びりと日本海側や能登半島をドライブしながら5月2日に松本入りし、住民登録も済ませました。

JR松本駅から新宿寄りに3つ目の村井駅から徒歩1分、長野自動車道の塩尻北ICまで車で5分と交通至便な立地のご実家は、二階建て5LDKの母屋と平屋二間の離れとで構成される家で、一人で住むにはもつたない広さです。ぜひ、針葉樹会員諸氏や現役学生諸君には、上高地方面等にお越しの際にはお立ち寄りいただきたく、オーナーの許可を受けた賃借人としてお願い申し上げます。

以上が松本移住に至る顛末記です。続いて、移住直後の小生も参加した針葉樹会員有志による岳沢合宿に関する報告です。

岳沢合宿報告（敬称略）

平成28年5月3日（火）～6日（金）

参加者＝兵藤元史（S52）、佐藤周一（S54）、
齊藤誠、川名真理（S63）（中途から）
前神直樹（S51）、佐藤活朗（S53）、神野隆（S54）

概要

5月3日（火） 松本駅で集合（兵藤・佐藤周・齊藤・川名）後、齊藤車で沢渡へ。タクシーに乗換え上高地へ。昼食後、上高地を出て岳沢小屋BC着（16時）

4日（水）午前中は奥明神沢の偵察。昼から前神・佐藤活が合流。

5日（木）6人で西穂沢から西穂高岳を目指す。6時半出発、11時半に登頂。岳沢小屋BC帰着は16時。前日までに職場の友人と霞沢岳方面へ行っていた神野が昼過ぎにBCテントに合流。

6日（金）上高地経由で松本へ。7人で村井の兵藤実家に立ち寄り打ち上げ宴会し、各自で帰路へ。



西穂高岳で。左から 兵藤、佐藤(活)、前神、川名、佐藤(周)

（1）当該合宿に至る経緯

今回の合宿は、今年1月末に予定されていた八王子でのゴルフコンペ企画が契機となつた。残念ながら今冬一番の寒気に見舞われたゴルフ場がクローズでコンペは出来なかつたものの、19番ホールの飲み会は予定通り行われ、その席上、兵藤から出身高校である松本深志高校山岳部OB会が所有するテントを活用した岳沢合宿をGWにやりたいとの提案があり、数名の賛同が得られた。深志高校と言えば、昔から上高地・小梨平のテントサイトが知られているが、諸般の事情で設置が困難となり、その一部代替策のような形で山岳部OB会が岳沢小屋の協力を得て6人用のダンロップテントや炊事道具などを小屋に預け、関係者がいつでも利用できるようにしているとのこと。しかし、上高地時代と異なり岳沢では利用率が芳しくないことから、少しでも利用実績を残すため、兵藤+その友人たちという構成でテント泊させてもらうことになつた次第。メールのやり取り等を通じ最終的に7人が参加した。

合宿報告

【初日…5月3日 曇り時々晴れ】

GW前半から天候不安定が続き、北ア方面でも遭難事故が多発している状況下、3日の

午前10時にJR松本駅にて先発隊の4人が集合した。佐藤周は前述の通り、前日から松本市となつて泊まつた兵藤実家から電車で兵藤と川名は新宿発のスーパーあざさで。そして斎藤は勤務先のいわき市からマイカーで4時間かけて松本入り。大容量のエスティマに荷物を積み込み沢渡へ。沢渡のマイカー駐車場はすでに満杯に近く、4日間駐車する車は奥の方へ停めさせられることに。通常は専用バスで上高地へ向かうところ、4人なのでタクシー利用でも単価的には差異が無いことから迷わずタクシー利用。アルピコ交通社の運転手は最近、関東方面から夫婦で移住・転職したばかりのこと。松本市内の浅間温泉近くに住まわれているそうで、健康面、特に水質の良さが奥方の体調改善にも大きく寄与している等の話を聞かされた。

昼少し前には上高地に到着。後発隊（前神・佐藤活）の状況を知ろうとメールしたところ、新宿を朝7時に出た高速バスは早速、GWの渋滞につかまつたほか、これは後で判明したが、その後、沢渡近くのトンネル内交通事故の影響で結局、上高地着が夕方になり、この日の合流は叶わなかつた。

先発隊4名は食事後、装備を整え登山届を提出して出発。高曇りながら、観光客も行き交う新緑美しい梓川右岸の道を辿る。明神池

方面への道を分け、岳沢方面への道に入ると徐々に傾斜がきつくなり、重荷にあえぎながら登る。針葉樹会有志によるこのような合宿に初見参の佐藤周は、丁度40年前の山岳部2年時のGWに岳沢での小合宿に参加したことを見出す。当時始めたばかりの山スキーを試そうとサレワの重たい板を担いで上がったものの、岳沢では連日のように雨にたたられ、テント近くの雪面上を川のように水が流れる状況に山スキーどころではなくなったのを覚えている。

今年も暖冬のためか、岳沢には残雪が少なく、小屋の直下でようやく雪渓が現れた。深志高校山岳部OB会のテントは、小屋の好意ですでに張り終えられており、トレーニング不足で疲労困憊の体には助かる。張り綱を竹ペグで補強などの作業を終えて中に入るところ、ダンロップテントは居住性抜群で4名で使用するには丁度良い。深志高校装備のナベ等を使い夕食のカレーを堪能。食後には持ち寄った各種アルコールのほか、CDプレイヤーによる演歌鑑賞というオマケ付きで楽し夜が更けた。

【2日目・5月4日 晴れのち曇り】

夜半に強風と雨となり、テントが激しく揺さぶられたが、強度的には何ら不安を感じることなく夜明けを迎えた。朝食後には急速に

流。小梨平のホームレス的な住人や売店のコンビニ居酒屋風サービスなどが話題となつた。早めの夕食は肉たっぷりの鶏ナベで、食後は再び演歌鑑賞タイム。持参した酒はほとんど飲み尽くされてしまった。

【3日目・5月5日 曇りのち晴れ】

夜半に再び強風となつたほか、寒気が襲来して冷え込みがきつくなり、若干の降雪も見られた。それでも夜が明けると風が弱まり、予定通り、西穂沢から西穂高岳を目指す。6時半には装備を整え出発。途中の間の沢あたりではデブリを避けるためか、先行トレイースに従い大きく迂回下降して西穂沢に取り付いた。この時点では上部はガスで何も見えない。齊藤がトップを務め、力強いキックステップで2時間ほど歩くも、上方に眺望改善の兆しが見えないことから、10時半の時点では兵藤Lが「11時までに稜線に上がれなかつたら引き返す」との宣言が下された。早く戻つて「おでん+焼酎セット」を楽しみみたい筆者は「やつた！これで戻れる」と喜んだのも束の間。じきにガスが晴れて、少しばかり雪庇が張り出ず稜線が見えたので登攀続行。

1メートル弱の雪庇を崩して稜線に出ると、そこは強風吹き荒れる冬山の世界。稜線上の積雪は少ないものの、斜面の夏道を覆う箇所ではアイスバーン状の氷雪面が出現。慎



左から 神野、兵藤、佐藤(活)、佐藤(周)、斎藤、前神

重にピッケルとアイゼンのツアツケを利かせながら登る。斜度のきついピッチを抜けると

山頂に出たが、眺望は殆ど得られず、強風下で記念写真を撮るのがやつと。早々に下りにかかるも、登路以外に楽に降りられそうな道が見つからない。やむなくザイルを出して登路を下降することになり、齊藤がトップで下る。ハーネスを保険として持参した筆者はよもや実戦で使うことになるとは……と感心する暇もなく、順番待ちの時間の経過と共にかじかむ指を気遣いながら下る。結局、悪場で

2ピッチ、ザイルをF1Xにして下りた。川名のペースに合わせて慎重に西穂沢への下り口に到着。沢に入れば風はやみ、ホツとひと息つく。アイゼンを外し、あとは腐った雪面に足をとられながらのんびり下ると、上空が晴れ始め、対岸の明神岳や奥明神沢が正面に綺麗に見え始めた。行きの迂回下降路ではなく、出来るだけ岳沢小屋に向かた水平トラバースを試みるが、ガレ場や樹勢の強い灌木に遮られるなど苦闘の末、4時前にはBC着。すでに神野が昼過ぎから待ちくたびれていた。

7人全員が揃って、夕食の食材と追加アルコールも神野の荷揚げで揃い、現地での最後の晩餐へ。具沢山のトン汁に舌鼓を打ち、「石川さゆり」「テレサ・テン」のベストアルバム

をBGMに岳沢の最終夜は更けて行つた。

「4日目..5月6日 晴れのち曇り」

今日はテントを撤収し、小屋に預けて帰るだけなので、テントを乾燥させる意味もあり、各自のパッキングのあと、テントを裏返して天日干しする。

上高地には10時過ぎに着き、2台のタクシーに分乗して沢渡へ。ガラ空きとなつた駐車場でエスティマに荷物を移し、タオルと着替えを持って近くの日帰り温泉に浸かり4時間の汗を流した。

齊藤の運転で松本市内の兵藤実家まで全員で行き、向かいの中華料理屋に生ビールを注文し、ジョッキで乾杯。早めに戻る佐藤活を送り出したあと、兵藤の従兄弟氏が経営するこの中華料理屋で豪華晩餐会となり、前神と川名が乗る最終のあづさの時間まで打ち上げを楽しんだ。散々に酔っ払つた4人（兵藤・神野・齊藤・筆者）は結局、兵藤旅館へお泊まり。

以上、多少シビアな状況もあつた今回の合宿。個人的には40年ぶりの岳沢での雪上生活が楽しめて良かったです。西穂高岳には、山岳部1年時の春合宿で西穂・奥穂に挑んで敗退した際に頂上を踏んで以来のこと。本当に懐かしさで一杯になつた山行でした。皆さん本当にお世話になりました。今後の反省とし

ては、ピークを目指す以上は装備を万全にしたいと思います。（手袋に防水性が無いのを持参してしまい、凍傷にかかる不安を感じました。またハーネスとカラビナは偶々持ち合わせていただけで、ブルージックに必要なシリングを持つていなかつたのも反省点です）

進め！ 川口探検隊 紅葉酒編

外池 武司（昭和63年卒扱いだけど
留年して平成元年卒）

諸先輩のみなさま、私は外池（とのいけと読みます）と申します。某放送局に籍を置き、今年の6月までN×Kサービスセンターというところに出向して、『ステラ』という広報誌の編集をしておりました。以下は、このサービスセンターのアウトドア部の人たちと去年9月に谷川岳に登った時の記録であります。

9月27日（日）、サービスセンター川口探検隊（アウトドア部とも言う）秋季強化合宿に参加した。メンバーは、川口俊介隊長（30代）、百名山制覇に燃える栗井沙季隊員（20代）、樺沢泉隊員（40代）、それに50代の私の4人。

目的地選定では体力派の川口隊長が、アルピニストの憧れ、岩と雪の殿堂の剣岳に週末の1泊2日で登るという意欲的かつ無謀な山行を主張。対して、体力に自信のない私が、

山で紅葉見て下山後は温泉で宴会したい、劍なんか行つたら岩場で落つこちるかもしなないしーどーね、歳の近い樺沢隊員も同調の気配を見せたことから、結局、上越国境の谷川岳で日帰り紅葉山行となつた。

当日は登山口の土合からロープウエーで一気に標高1300mの天神平へという楽ちんコース。標高差600mを10分で稼ぎ、これから歩き始める。自分は、学生時代にここから山頂まで歩いたことがあります。眺めのいい稜線をルンルンと2時間も歩いたら頂上に着いたと記憶しております。そのため、この日も昼過ぎには下山し、温泉で「てんごくうー」と叫んでいたはずであります。

当日の服装は、川口隊長と栗井隊員が、スボーツ用タイツの上に膝までのズボン、樺沢隊員も格好いいアウトドア用ズボンといかも今風の山屋。対して私はジャージであります。私たちの学生時代、山はジャージ全盛だったので、今でもこの格好が一番しつくりくるのであります、はつ。

すでに格好から差をつけられたまま、樺沢、外池、栗井、川口の順で出発。しかし、何か昔の記憶と違う。「あれ、こんなに急だつたかなあ」「こんな鎖場覚えてねーよ」等々、心の中で悪い予感が広がる。1回目の休憩までは何とか平静を装うが、その後バテ始める。先



右端が筆者

ところが時代は進んでいた。栗井隊員がやおらスマホを取り出し、「山小屋まであと15分です」などときつぱりと言う。GPSで現在位置を割り出し、目的地までのタイムを示したりする地図アプリを使っているというのだ。いわば山のカーナビだ。山にも文明開化の波が押し寄せていたのだ。

一方、私の目下の興味は、GPSとちょっと似ているが中身は全く違うGTP。しかも頭にマサがつくやつ。健康診断でこの数字が高



いと「酒の飲みすぎだよ」と医者から怒られるアレである。1か月前の人間ドックで上限の3倍に達してしまい、以来、禁酒とスポーツジム通いを続けてきた。おじさんだつて、久々の山行にちゃんと備えてきたのだよ、川口君、ふつふつ。だつたのだが、やつぱりバテてしまい、霧の合間をついて皆が写真を撮りだすと、すかさず道にへたり込んで休憩。そのうち、何もなくても5分歩いたら「ふー」と息をついて休むなど、ヘロヘロになりながら山頂へ。次第に霧も晴れ、目的だった紅葉も結構見えるようになる。しんどいけど、来て良かった！ ちなみに山頂では、GPS栗井隊員が、プラスチック系の袋にお湯を入れるだけで美味しい本格珈琲ができるデンマーク製の新兵器を取り出し、みんなでごちそうになった。

ふもとには目算よりだいぶ遅い午後3時半に帰り着き、水上の温泉街へ急ぐ。利根川沿いの露天風呂で吹き抜ける涼風に○ン○ンをぶらぶらさせつつ「てんごくうー」と叫び、この後、駅前食堂で大河ドラマ『花燃ゆ』にも登場する上州名物「おつきりこみ」と1か月ぶりのビールを腹に入れ、第二の天国を味わった。ちなみにこの2日後の再検査で、筆者のマサGTPは正常値に戻っていた。やつたぜ。

いと「酒の飲みすぎだよ」と医者から怒られるアレである。1か月前の人間ドックで上限の3倍に達してしまい、以来、禁酒とスポーツジム通いを続けてきた。おじさんだつて、久々の山行にちゃんと備えてきたのだよ、川口君、ふつふつ。だつたのだが、やつぱりバテてしまい、霧の合間をついて皆が写真を撮りだすと、すかさず道にへたり込んで休憩。そのうち、何もなくても5分歩いたら「ふー」と息をついて休むなど、ヘロヘロになりながら山頂へ。次第に霧も晴れ、目的だった紅葉も結構見えるようになる。しんどいけど、来て良かった！ ちなみに山頂では、GPS栗井隊員が、プラスチック系の袋にお湯を入れるだけで美味しい本格珈琲ができるデンマーク製の新兵器を取り出し、みんなでごちそうになった。

川口隊長、これに懲りずまた山に連れてつてくだけえ。次は、クロスカントリースキーか何かでさくさくと雪原に分け入り、テントで熱燭をキュッ、なんていう雪見酒山行がいいなあ。ワカンやスノーシューは疲れそうだからスキーがいいなあ。山小屋のこたつでもいいなあ。(続くか 続かないのか？ どっちだ)

「お伊勢さん」の土地から

田形 祐樹（平6年卒）

「縁も、ゆかりも、ありません」

私は、現在、弁護士として、三重県伊勢市で法律事務所を一人で営んでおります。私の実家は横浜ですが、「なぜ、縁もゆかりもないのに、伊勢なの？」とよく聞かれます。それには、「縁もゆかりもないからこそ、伊勢なんです」とお答えしています。知らない土地に行きたい、住みたいという願望は、山岳部時代に培われたのかもしれません。

それから、こちらは、食べ物がおいしいです

す。海産物、魚介類、松阪牛などなど……。伊勢の隣り、志摩は、「美つ国（みけづくに）」といわれています。美味しい国ということです。人柄も穏やかです。こうしたこと、伊勢を選んだ理由です。

職住も接近……歩いても5分。サラリーマン時代に、横浜の実家から、新宿の職場まで通っていたときには、最寄駅まで徒步15分、満員電車で座れずに1時間。このように、仕事前に疲れていたのに比べると、今は天国みたいです。

事務所から徒步5分のところには、伊勢神

宮（外宮）があり、いつでも参拝にふらっと行けるのは、ありがたい環境です。なお、伊勢神宮は24時間参拝可能ではありませんので、参拝をお考えの方は、ホームページなどで参拝時間をチェックください。朝は5時からですが、終了時間は季節によって異なります。早い時期には午後5時には参拝できなくなります。なお、私としては、早朝をお勧めします。人が少なく、静かで、厳かな雰囲気が漂い、とてもいいです。休日の昼間は、ちょっととんざりするほど人が多くなることがあります。

山登りの環境について

紀伊半島は、魅力的な山登りのスポットを



早朝登山、朝熊山山頂で

提供しているといつていいでしょ。熊野古道、大台ヶ原、御在所岳……近くの山にも、登山口まで、自動車ですぐにアプローチができます。

私は、本格的な山登りから遠ざかっているので、残念ながら、紀伊半島での沢登りや、御在所岳での岩登りは、まだ、できていません。針葉樹会員の方が来たら、それを契機にプランを立てたいなあと漠然と思っています。人が少なく、静かで、厳かな雰囲気が漂い、とてもいいです。休日の昼間は、

なお、近郊の山はちよくちよく登つております。すぐ近くに、朝熊山（555m）というがあります。ここは、登り1時間30分、下り30分くらいで登頂できますので、よくトレーニングに登っています。登山口までのア

プローチも自動車で約20分ととても便利ですから、平日でも、朝ごはん前には登つて帰つて来られるくらいです。なんとも贅沢な環境です。

この山を舞台にした、20キロのトレイルランニングレースが、毎年12月に開催されます。私は3年連続で出場しております。専門時間もそれほど厳しくないので、参加してみませんか。一緒に走りましょう。ご連絡ください。

伊勢志摩サミット

2016年5月には、G7の伊勢志摩サミットが開催されました。

「そちらは、どうでしたか？」大変でしたか」とも、よく聞かれましたが……。確かに、志摩の、首脳宿泊先ホテル周辺は警備が厳重だったようです。ですが、同じ志摩市でも離れたところでは、検問があり、私も停められたこともありました。軽く声掛けされるくらいでした。また、伊勢市内ではそれほどではなく、応援の、他所の警官が、うろうろしていたくらいでしようか。

サミットを避けて、前後は、観光客がかなり減り、伊勢神宮などは、地元の人によると、「昼間に、こんなに参拝客が少ないことはなかった」と言っていました。魚や野菜の仕入

れが不安定といふことで、休業している飲食店もありましたね。

道路は、首脳の車が走る場所を中心には整備されていましたが、反動で、工事受注など減りそうですね。

針葉樹会員、歓迎します！

これまで、こちらへは、針葉樹会員では、吉川晋平さんに来ていただきました。また、中村保さんに、横断山脈研究会の伊勢での総会のとき、来ていただきました。私がこちらへいる間に、早めに遊びにきてください。私は、前回は、佐賀県伊万里市にいるときに、針葉樹会報に寄稿させていただいたと思います。いつ、他の場所に移るか、わかりませんよ（笑）。

なお、その吉川さんに来ていただいたときに、三重南部のゴルフ環境の素晴らしさを教えていただき、私もゴルフを始めるようになりました。ゴルフ目的でも来てください。

また、上記のように、山のフィールドにも困りません。本年2016年秋に、中村雅明さんが熊野まで来てくださる予定で、一緒に大峯奥駆道を縦走する予定になっています。

連絡先は yuukiiagata@gmail.com まで、ぜひ連絡ください。

南アルプスの山とリニア新幹線

宗像 充（平12年卒）

登山の雑誌の取材で、リニア新幹線の工事予定地に入るという名目で、南アルプスの大鹿村に入ったのが4年前の2012年。大学1年のときに冬山の偵察で小渋川から荒川三山の登山に来たのが1995年の秋だったのですで、17年ぶりの大鹿村だった。

学生のときどういう風景だったのかちっとも覚えていない。村からは小渋川沿いに赤石岳がよく見えて、モノトーンの過去の記憶が鮮やかに色づいていった。17年前には、最後の集落の釜沢で4年の渕沢さんが「こんなところによく人が住んでいるよなあ」と言つた言葉を、今もよく覚えている。

その釜沢がリニア中央新幹線の南アルプスルートの工事現場になる。釜沢の手前には日向休という赤石岳のよく見える場所がある。そこに南アルプストンネルを出たりニアの路線が橋梁で小渋川をまたぐことになつていい。ウェストンの『日本アルプス登山と探検』

には、ウェストンが駒ヶ根から分杭峠を越えて秋葉街道沿いに大鹿村に至り、そこから赤石岳を目指した記録がある。1892年のことだ。当時、南アルプスの最高峰は赤石岳と考えられていて、それが山脈名にもなつている。

ウェストンは村の人の真摯な対応に感銘を受けたようで、それを著書で紹介し（読んでください）、村の人は自分たちのことを世界に知らしめてくれたウェストンを顕彰する記念碑を2012年に建立している。

ウェストンが持ち込んだ「近代登山」を、畏れ敬う対象としての山から娛樂を本道とする登山形態への移行と乱暴に言つてみよう。登山に精神修養の要素があつても、登ること自体の楽しみは肯定され得るとぼくも思う。しかし、遠く高い峰々を目指して困難を克服するということの楽しみは、両者に共通する。だから近代が山によつて得られる精神性を否定し尽くせば、もはや登山そのものも成り立たない。

以前、那智の滝をクライマーが登つて問題になつた。うちの田舎で言えば、白杵石仏をよじ登るようなものなので、「罰当たり」なわけだ。ただし、「登りたかったんでしよう」というその動機 자체は否定すべきことでもないで、刑事罰で問うてそれでよしとする社会

ある。

工事は着工したけれどそういう事情なのできっとJR東海には天罰が当たるだろう。工事がそのまま進むとも思えない。だからもつと南アルプスに行きましょう。



日向休から赤石岳

はいいものだとも思わない。

大鹿村の小学生は「赤石岳に穴を開けるなんて罰当たりだ」とリニア計画に対して言つたという。富士山の下にトンネルを掘ろうとする人はいない。リニアの場合、「掘りたかったんでしよう」という動機はそもそも仕事でやるトンネル屋に許されるものでもない。国立公園に穴を開け、小学生の普通の感覚を軽視して登山や地元の人の生活を損なつていくのが近代が行きついた果ての单なる「金持ちの道楽」だとすれば罪深い。

現場を知らずにあれこれ言うのも何なの

で、南アルプスをこの間何度か登った。4年の間に地元の人とも知り合いになつていつしょにも登つた。塩見岳、小渋から赤石岳、赤石沢、小河内沢、光岳、それに大鹿村の小さな山々。深い亜高山帯の森を一日登つて稜線漫歩ができる山々は世界的に見てもほかにない、と専門家は言う。行くのはたいへんだけれど、その人もいない。山小屋の主は相変わらず不愛想だ。沢に入つて人と会うこともまずない。だから南アルプスが好きな登山者は今も多い。まだまだ知つてほしい自然や楽しみ方が、ぼくが行つただけでもたくさん

新歓山行（甲州高尾山）

小久保 剣（法学部2年）

参加者＝内海拓人（法3）・清野有紀（ICU
3年）・原島大介（商2）・安藤由都（法2）・
高謙（社2）・田中亨（商1）・岩崎巧実（法
1）・袁銘（明治大学1年）

天気：晴れ

コース＝勝沼ぶどう郷駅 9:30（発）→ 大善
寺 10:05 → 柏尾山 10:30 → 劍ヶ峰 11:3
→ 甲州高尾山山頂 11:40 → 富士見台
12:35 → （40分ほど昼食）→ 展望台 13:20
→ 大滝不動尊 13:40（着）→ 勝沼ぶどう
郷駅 15:05 合計5時間35分

大善寺から柏尾山までの急な坂は多少困難
だったが、それ以外は岩場などもなくわりか
し易しい山行であった。メンバーは直前に
キャンセルが続いたため、予想していた雰囲
気とは少しづかうものの、体験の袁銘さんを

中心に和気藹々とした山行であった。

●感想と反省

今回初めて自らが計画した山行であつたた
め、いつもの後ろからついていく山行とはま
るで登山の感じ方が違つていて、気疲れはし
つつも新鮮で充実した山行であった。

朝、勝沼ぶどう郷駅につくまでに、もとも
と参加を予定したメンバーの中、四人がキヤ
ンセルになつてしまい、新入生（まだ部員に
なつていらない者）が一人という新歓山行に
なつてしまい、さらにもともと予定していた
ルートが大日影トンネル（個人的にとてもみ
たかった…）封鎖のため使えなくなつてしま
い、急遽昨年の新歓山行ルートで回ることに
なつてしまつた。そういう想定外の事態が
立て続けにあり、内心動揺しつつなんとかこ
の山行を成功させようという思いで駆け出発
した。こういったトラブルに遭遇することを
想定することが大事で、特にルートに関して
は過去の山行記録やヤマレコといったものか
ら事前に十分な情報を得ておくことが必要不
可欠だと強く感じた。



富士見台にて

先頭にたつて列を導くこと、それがこんな
にも不安だとは思いもしなかつた。緊張しつ
つ、少しの道の間違えなどにビクビクしてい
た。反省点としては、できるだけベースを落
とそう落とそうとしていても少しベースが早
くなつてしまうことが序盤にあつて、後半は
絶え間なく後ろを見返してベースを調整する
ことを心がけた。次に富士見台に向かう時に

地図に書いていない巻道を使つてしまい余分な時間をかけてしまったことだ。これからは分岐点についていた時はより一層の注意を払つてルートを確認しようと思う。

最後に、休憩する予定がない場所や時間帯

であつても景色が良いところでは少し立ち止まる時間を作るべきだと感じた。今回は予定に忠実にすることに頭がいっぱい、次はもう少し自由に幅をきかせる、)とをしていけたらいいなと思う。その他は順調そのものといつてよく、天気も荒れることはなかつたし、富士見台では晴れた日射しのもとで集合写真を撮ることもできた。自分も一眼レフを持参して、少ないながらも数枚いい写真が撮れて楽しみを享受できた。その後アフターも数人で行つてがつり肉を食つて、いい週末を過ごせたなあと感じた。

それで今年の新歓山行が終了ということであり、新入生の参加が少なかつたのは本当に残念であったが、自分のように新歓山行の後の夏頃から山に登つて入部することもできるので、どうし山行に参加して登山の楽しみを味わつてくれたならと思う次第である。

新歓山行（川苔山）

坂本 遼（法学部2年）

メンバー＝鈴木由佳理（社1）、胡迦安（経2）、坂本遼（法2）、原島大介（商2）、内海拓人（法3）、水洞章夫（法3）／体験＝松橋凜太郎（法1）、山本竜希（社1）

天気：晴れ

コース＝登山口 9:45 → 細倉橋 10:30（出発 10:40）→ 百尋の滝 11:23（出発 11:31）→ 沢 12:07（出発 12:22）→ 川苔山 13:08（出発 13:31）→ 作業道途中 14:20（14:27）→ 登山道途中 15:20（15:23）→ 古里駅 15:50
合計 6時間5分

高尾山に続く新歓山行第2弾といつてで、今回は川苔山を目指すことになった。新歓行事と重なるなどして第2弾の開催が5月にもつれこんだのは今後の大好きな反省点であるが、それにもかかわらず2名の新入生が体験に来てくれたのは嬉しいかぎりである。自分としては昨年の川苔山新歓山行時に、中腹で隊を分けてからのペースについて行くのが

大変で、山頂でへとへとなつて記憶があり、この山にはあまり良い印象がない。自分がこの一年どれだけ成長したかを測るうえでもよい機会となる山行であった。

当日の朝、新歓期といつてもあり連日出歩いていた疲労からかあまり体調が良くなかつた。先週の丹沢はこの体調ではまず無理であつただろう。今回は新入生と一緒に登ることが大事と考えとりあえず自宅を出発したもの、去年も苦労した山なだけに不安があつた。さらに電車の中で複数の部員から欠席の連絡が相次ぎ、今回CLを務めるはずであつた安藤も体調不良ということを聞き、安ちゃんと相談の上、急遽自分がCLを務めることになった。もし自分で休んでいたらさらに厳しい山行となるところであつた。忙しい時期ではあるが、改めて体調管理的重要性は自分も含めて各員に徹底したい。

今回は去年と異なり奥多摩駅からバスで川乗橋に入り、百尋の滝を経由して登るコースとなつていて。考えてみると先頭を歩くのは1年生企画以来である。ペース配分に気をつけることを意識して歩き始める。最初は細倉橋までアスファルトの道を少しずつ登つていく。新しく入つた鈴木と話しながらゆっくりと歩くことを心がける。彼女はGW中に帰省

した際装備一式を購入してきただし。新入部員の山に対する意気込みが強いことは本当に嬉しい。今後も経験を重ね、1年後には新人生をリードして先頭を歩いてもらいたい。細倉橋までは地図にあるコースタイム通り



川苔山山頂で

で進み、ここから本格的な登山道に入る。緑が多く時折さわやかな風が吹く素晴らしい気候で、新緑を満喫しながら進む。緩やかな登りなので、そこまで苦労もせずに百尋の滝に到着。ここまで地図上のコースタイム通り

まずまずといつたベースであろう。滝は迫力があり、しばしの間水と戯れる。滝を訪れる登山道は今までになかったので新鮮であつた。気分新たに川苔山を目指す。

このあたりから本格的な登りが始まり、ペース配分にさらに気をつけて進む。部員の表情も気をつけるため時々後ろを振り返りながら進む。すぐ後ろの鈴木の表情が曇つてしまっているのが見受けられ、声をかけて状態を確かめながら慎重に進む。登りは40~45分に1回程度の休憩を意識していたが、場合によつては途中で休憩すべきかとも思えたが、登りの後に平坦な道を通過する感じで続けて長時間登りが続くことはなかつたので、無事プラン通りの休憩で済ませることができた。途中の沢で少しご飯を食べたりするなどかなり休憩に時間をかけたのにもかかわらず、設定されていた2時間を下回る1時間半ほどで川苔山に到着。急な登りがあつたものの、気温もそこまで高くなく、会話も弾みながらの良いペースだったかと思われる。山頂からの展望は抜群によく、素晴らしい景色を見せ

られたのではないか。これで川苔山は2年連続で天候に恵まれた。来年以降の新歓山行でも候補に入つてくるのは間違いないだろう。体験の男子も疲れた顔を見せず、今後の活躍が楽しみである。

下りも去年とコースを変え、赤杭尾根を古里駅に向かって下りていく。下りは1時間に1回ほどの休憩を意識する。コース紹介に書いてあつた通り、時折展望がきくコースで、奥多摩の山や東京の街並みを遠くに眺めながら進んでいく。メンバーの表情を確認しながら進むが皆そこまで疲れている様子もなく、軽快に下山できた印象だ。2時間50分のところ2時間20分で下ることができた。全体としてベースも乱れることなく、無事先頭の役目を果たすことができ、満足して帰路につく。

後日談であるが、11日の部会で松橋、山本両名が入部してくれた。今後一緒に登れるのが今から楽しみである。心配だった体調であるが、登山最中はそこまで悪くなかったが、下山後疲れが一気にきて山行を書いているが、登山最中はそこまで悪くなかったが、15日現在も本調子でない状態が続いている。来週にはO.B.の中村さん、藤原さんとの乾徳山行きが控えており、一日も早い体調回復に努めたい。

■会務報告

夜叉神峠・高谷山周辺の登山道整備

小島 和人（昭40年卒）

針葉樹会の皆さんには夜叉神峠の最後の短い急坂を登り小屋の前に出ると眼に飛び込んでくる白根三山の雄姿に喜び癒された経験をお持ちと思います。でも「かんば平展望台」から更に素晴らしいパノラマを楽しまれた方は意外に少ないのではないでしょうか？夜叉神峠から高谷山を経て約20分、急坂を下り中池に至りますが、更に20分進むと「かんば平展望台」に至ります。ここからは農鳥・間ノ岳・北岳の白根三山に加えてアサヨ峰、甲斐駒そして鳳凰三山まで、南アルプス北部の主峰が勢ぞろいの絶景に思わず『ほー』と声の出る大スコープの眺望が楽しめます。

創部90周年記念事業として2012年秋、まずはトンネル東口→檜尾峠の山道修復を実施しましたが、目標はかんば平に至る道の修復でした。その後13年に檜尾峠→高谷山、14年檜尾峠→芦安大石山の神、15年高谷山→中池と、毎年20人ばかりで作業を続け遂に今年、夏山シーズンを前に檜尾峠→中池→かんば平のルートの整備が出来ました。この間、芦安ファンクラブ・地元富士通アイネットシステムの有志と一緒に作業しました。

と思います。

作業報告

平成28年5月28日（土）

午前9時芦安山岳館集合

9時30分作業

開始。芦安トンネル東口から檜尾峠に資材歩荷。その後檜尾峠→中池間の登山道修復。16時作業終了。芦安の白雲荘、チエツカーズに宿泊

今後も毎年補修の作業を続け100周年には立派なハイキングコースにしたいと思つていますが、会員の皆さんには是非お友達を誘つてかんば平展望台の眺望をお楽しみ頂きたい



5月28日、檜尾峠にて

5月29日（日）

午前8時芦安山岳館集合 8時30分作業開始。檜尾峠→中池→かんば平展望台→かんば平間の登山道修復と整備、檜尾峠→トンネル東口整備。15時作業終了し帰京。

参加者

両日参加（9名）＝芦安ファンクラブ 清水

准一専務理事、富士通アイ・ネットワーク

システムズ㈱ 岡本誠部長、針葉樹会は佐

藤久尚、岡田健志、吉沢正、中村雅明、宮

武幸久、井草長雄、小島和人

第1日参加（8名）＝芦安ファンクラブの大

滝要造、堀内訓、井上佳之、長谷川文、富

士通アイ・ネットワークシステムズ㈱の坂

上英輝、渡邊雄樹、針葉樹会は本間浩、高

崎俊平

第2日参加（3名）＝芦安ファンクラブの小

林成正、富士通アイ・ネットワークシステムズ㈱の高橋伸治、小平茂雄

三月会通信

■2016年3月22日■

【出席者】 佐薙、本間、小島、佐藤（久）、岡田、
宮武、高崎（記録）

▽懇親山行が4月3日（日）に計画されています。

現時点では16名の方々が参加されます。これだけ多くの参加者が集まる懇親山行は久しぶりのことです。メイン・ルートは、秦野駅からバスでヤビツ峠まで、そこから林道を少し下つて諸戸森林事務所に至り、金比羅尾根を登つて大山頂上を目指します。頂上から日向薬師経由で下山します。もう一方は、ヤビツ峠からイタツミ尾根経由で頂上に至り、ケーブル若しくは徒歩で下山します。それぞれ伊勢原駅前の反省（懇親）会場へ向かいます。山登りはチョットと負担だな、とお考えの方で懇親会だけに参加される方もあります。我と思われる方は、今からでも結構です、幹事役の本間さん・岡田さんとご連絡下さい。なお、佐薙さんから、メイン・ルートで見晴台から日向薬師に下る「関東ふれあいの道」の「九十九曲」に屈曲点は幾つあるか？の宿題が出てきます。

▽この夏の北海道遠征登山の概略計画が固まりつあります。幌尻山荘の予約が4月1日から受付

が始まるので、当日電話をかけまくつて予約を確保することがマストになるようです。この予約が出来れば「とよぬか山荘」及びシャトルバスの予約も見えてくるそうです。また、沢道で渡渉が強られるので「沢靴」が必要です。地下足袋に荒縄を巻きつけるとか、草鞋を履くとかの手もあります。

▽五月の遠見尾根に天幕を設けてカクネ里・鹿島槍北壁を眺めようではないか、という話が持ち上がっています。大谷原からカクネ里へのアプローチもありますが、雪崩の状況を見極める必要があります。遠見尾根のケーブルの終点近くの法政大学山岳部の小屋を使わせてもらえば自炊も楽になるのだが、強いコネが必要だろう。テントを上げるには現役学生部員の助けが欲しいところだ。遠見尾根にしても、八方尾根にしても、5月連休の後には大規模なメンテナンス作業が行われるので、この日程を確認しておかないといけない。色々な準備が必要になりそうです。

▽「三月会」に集まる会員の年代になると「認知症対策も真面目な話題になります。対策の一つとして、宮武さんが外出時にいつも持ち歩いている「ナンブレ（数独）」の本が紹介されました。日経とか読売とか、新聞にも掲載されていますが、会員の中には「何それ？」と存知ない方もいました。日経新聞の場合は「解くのに30分超……まだ初心者。30分以内……中級者。15分以内……キレキレ！」さすが上級者」とかのランク付けも

あります。また、最近はパソコンのソフトにも各種あつて、マウスを使って楽しめるようです。紙と鉛筆で挑戦する時は、消しゴムが必携になります。電車に乗つて座つて始める、つい夢中になつて乗り過ごしてしまった危険性もあります。

▽「ナンチク」さんの愛称で親しまれた高崎治郎さんは突然亡くなられて早いもので、もう一年経つてしましました。会員有志の方々で「ナンチクさんを偲ぶ会」が企画されています。日時は、今年11月8日（火曜日）、場所は、所縁の丹沢・中川温泉、「信玄館」が予定されています。「オーション会」の皆様をはじめ、大勢の会員の皆様のご参加を期待しています。

●山行報告

佐薙

3／7 金比羅尾根・大山・日向薬師。同行者は本間さん。尾根上部雪深し、下り一部どろん）。

竹中

2／20 小仏峠～陣場山。東京多摩支部第4期登山教室付き添い。

3／7 富士見パノラマスキー。町田往復バス代一日券込みで3900円と格安。

3／12～13 雲取山。東京多摩支部第3期終了登山付き添い。初日は降雪中、翌日は富士山眺望も。

本間

2／25 大山（男坂～表参道～女坂）リハビリ登山

3／3 高松山 クレージー会下見。

3／17 大山（金比羅尾根）。佐難さんと一緒。

小島

3／14 高松山。雨で途中下山。

高崎

3／11 東天狗岳。前夜の新雪で少しラッセル、

渋温泉・黒百合平経由で往復。

中村（雅）

3／4 高尾山。室内と二人、病院道コースから登

り、稻荷山コースを下った。

3／15 笹子駅～腹摺山。笹子駅～中尾根～中尾

根の頭～笹子峠～雁ヶ腹摺山～笹子峠～笹子駅。

藤原さんと、坂本君（1年）と3人。

宮武

3／3 高松山。本間さんと二人。

■2016年4月18日■

三月会世話役の高崎さんが18～20日仕事で中国の広東省に出張の為欠席されましたので、中村が代役で報告します。なお、文中「」内は後日の報告事項です。

【出席者】 佐難、上原、竹中、本間、小島、佐藤（久）、岡田、宮武、中村（雅／記録）

▽上原さんから中村保さんの如水会講演について

相談がありました。発端は三井博さん（昭37卒）に大学前期のクラスメートの永島寧氏から中村保さんの如水会での講演に関して相談があつたことです。永島氏は中村さんは香港駐在時現地の如水会で知り合い、これまで年4～5回同じ駐在時の数人の仲間で集まっている関係です。また、如水会横浜支部の会員です。

年初に刊行された「ヒマラヤの東山岳地図帳」

に感銘を受け、その出版記念講演を如水会で開催してもらえば意義深いと考え、如水会事務局長なり、横浜支部長なりへの講演企画提案の前にご自分で判断が妥当か針葉樹会のご判断をお聞きすべきでは？ 如水会講演を頼むなら針葉樹会からお願いしてもらうべきではないか？ の相談でした。三井さんはこの依頼に対し針葉樹会としてどう返事すればよいか3月会で相談したい所でしたが、体調不良、当日不都合につき、三月会での相談を上原さんにメール依頼されました。

このメールが竹中さん、小島さん、高崎さんにも配信され本日の三月会を迎えるました。上原さんは、中村さんが最初の本を出版された時、如水会館の「三木会」で講演していただいたと記憶しているので、この流れから「三木会」の後継の「新三木会」に講演依頼をしたらと提案されました。

「新三木会」は則松久夫氏が代表幹事をされ、毎月いろいろなスピーカーを呼んで毎回100人前後が出席（2000円会費）されているそうです。『如水会々報』の「同好会案内」に開催案

内が掲載されています。則松氏は39卒で竹中さんと同期です。ニュージーランドのトレッキングに行際に現地のエージェントを紹介して貰つた仲です。竹中さんは「新三木会」に良く出席されていました。この関係があることと針葉樹会会长の立場から竹中さんに「新三木会」に講演依頼していただくことになりました。運営はお任せし（協賛でなく）、やるべきことが有れば針葉樹会と一緒に手伝いする立場での依頼です。

「新三木会」で受けられなければ横浜支部で主催していただく様に永島氏に依頼します。上原さんはよれば横浜支部は如水会より先に出来た会で、講習会動員力は一番ある会だそうです。故高崎治郎さんが生前はレギュラーメンバー、小島さんは先週入会されました。「竹中さんは早速、4月20日に則松氏にメールで講演依頼されました。21日の「新三木会」に参加し、開会前に則松氏と立ち話をして、本のカタログを渡しました。暫く検討の時間が欲しいとのことです。」

▽4月3日の大山懇親山行は小雨模様の生憎の天気でしたが、特別会員・HP管理者の山崎さん、学生3名を含め、参加18名の久しぶりの賑やかな懇親山行となりました。山行の詳しい模様は山行幹事の岡田さんが取り纏め中です「21日に完成、HPに掲載準備中です」。金比羅尾根経由で大山頂上に登ったA班9名は当初の見晴台経由向薬師のルートでの下山を取り止め、参詣道を大山ケーブル駅に下山しました。この為、事前に

佐薙さんから出されていた「日向薬師ルート」の「九十九曲」に届曲点は幾つあるか?」の宿題は次回に持ち越しになりました。岡田さんから計数カウンターを持って行く、石を100個持つて行くアイデア(冗談?)が出来ました。伊勢原駅前の「GEN」で行なわれた懇親会は、坂本君は不参加でしたが、山行をバスした小島さん、高崎さんも参加した総勢19名で店を殆ど貸切つての大盛会でした。最近、高齢化を反映して宴会での酒量が減っていますが、本間さんが用意した高崎酒造の「しま安納」2升も含め、いつも以上の酒量で18時頃散会となりましたが、山崎さんを含め、7人の侍ならぬ酒豪がさらに居残り、遅くまで大酒を飲んだ話が暴露されました。山崎さんは途中で帰りましたが、造り酒屋の息子の佐藤(久)さん以外は殆ど正体を露見させました。Sさんは家に帰ったのが翌日だった……、Nさんは店の前でぶつ倒れ、それを支えたHさんも倒れ2人でひっくり返った……車で帰ったHさん、Mさんはどう帰ったか覚えていない……NさんとHさんはザックを間違えて帰り翌日宅急便でお互いに送った……本人及び一緒に飲んだ中では最後まで正気で最強の酒豪を証明した佐藤(久)さんによって次々に披露され、皆であきれるや感心するやでした。久し振りに酒豪連の面白い武勇伝?を聞くのは愉快でした。

▽昨年9月の「妙高山懇親山行に福島から参加し、今秋の奥会津懇親山行を請け負った齊藤誠さん

(昭63卒)が早くも計画を具体化され、山行幹事の宮武さんが計画案(末尾に添付)を配布説明されました。10月21日(金)に集合前泊し、22日志津倉山、23日博士山の大変魅力あるプランです。宿泊場所は未定ですが日程は決定です。本間さんから「この山行は越後シリーズの10回目に当たるので記念の宴会を豪勢?にやりたい」と提案があり皆さん賛同しました。会津には魅力的な山が沢山ありますので、越後シリーズの延長で会津シリーズとして継続される可能性大です。皆さんの山行予定に組み入れて下さい。

▽5月の八ヶ岳懇親山行も話題になりました。昨

年、八ヶ岳スバートレインウォーカーは終了、「今後はゆつくりと八ヶ岳山麓散歩シリーズの新たなルートを開拓したいと金子さん」が会報133号に書かれています。山岳部にとってもこの時期の八ヶ岳は新入部員も参加出来る絶好のフィールドなので合同懇親山行を是非やって欲しい、金子さんにやつてもらえると有り難いとの要望が出ました。毎年お世話をなつたアダージョは売りに出されているものの未だ奥様が少人数の宿泊を切り盛り(松尾さんは殆ど日野町通い)されています。自分達で食事を作ることにすれば利用させてもらえるのではないかの話について、本間さんが宮武さんに「明日、昼から会で泊まる塔ノ岳尊仏山荘で予行演習をやつたら」と声をかけさ

るに話が弾みました。

▽南アルプス縦走(その2)は8月4日に出発、予備日を入れて10までの日程が決まりました。光岳から北上し、聖岳、赤石岳を越え、大聖寺平から広河原小屋に下りて泊、翌日小渋川を下り大河原で登山終了の中村案に小島さんが乗りました。広河原小屋は無人なのでシユラフカバー、エアマット、小渋川の渡渉の為の沢靴が必要になります。

▽五月の後立山行の大筋が固まりました。五竜山荘の5月連休の営業は5月7日までなのでそれに

合わせて遠見尾根を登り、翌日唐松岳頂上山荘 or 八方池山荘までの岡田さんの縦走プランに中村が乗りました。吉沢さんも誘います。遠見尾根の右側に張り出す雪庇、五竜岳山頂直下の雪壁の下降に注意すべしとのアドバイスがありました。

佐薙さんも連休明けに八方尾根から唐松まで行く計画があるので会える可能性があります。

▽岡田さん・吉沢さんが3月31日（前夜湯檜曾温泉泊）に天神平から天神尾根を登つて谷川岳を往復しました。快晴に恵まれて迫力ある写真を撮りました。近々、山行記＆写真がHPに掲載されます。

▽長島弘賢さん（平27卒）以降の最近卒業した針葉樹会員の連絡先が不明です。「長島さん以下の会員の電話・メール・住所等の連絡情報を総務幹事の高崎さんに集めて皆で共有して山行・飲み会などへ誘おう」と小島さんからの提案がありました。学生幹事の宮武さんに音頭を取つてもらつことになりました。情報をお持ちの方はH.U.H.A.Cメールにてお知らせ下さい。「小島さんが4月19日にH.U.H.A.Cメールでこの件を関係者に流しました」

▽竹中さんから国立登山研修所で開催される「大学生登山リーダー研修」の予定を学生に知らせて受講を薦めたが返答ない。5月21～27日の春山研修会には間に合わないと思つが8月29日～9月2日の夏山研修会には是非参加する様に働きかけたらどうかと提案がありました。小島さん始め

皆さん賛同し、3年の内海君・大矢君の参加を年間計画に組み入れてももらう様に宮武さんから学生に伝えてもらうことになりました。

▽2014年7月26日に行なわれた懇親山行・越後シリーズ第8弾栗ヶ岳を再訪しようという話

がその山行に参加した佐薙さん・本間さん・小島さんから出ました。佐薙さんが前回の山行幹事の加藤博行さんから5月の栗ヶ岳の素晴らしい雪山写真を受け取り登行意欲をそそられたことから話です。前回は猛暑と山ビルで敗退した反省を踏まえて、①時期は5月か6月②本間さんと遠藤さんが前に泊まつた麓の宿に泊まつて早出するなど話し合われました。

▽5月26～29日に芦安登山道修復作業が行なわれます。今回は中池～檜尾峰のトラバース道のロープ張り、梯子設置が修復の中心です。補強に必要となる鉄製梯子については芦安ファンクラブも資金を用意することになっています。このコースの修復が終わると当初構想した大周回路（夜叉神峠登山口～夜叉神峠～高谷山～中池～檜尾峰～夜叉神トンネル東口～夜叉神峠登山口）が実現します。今後はメインテナナンスと地図（国土地理院・昭文社）へのルート掲載の働きかけを継続する必要があります。

4／2 上原
竹中
西丹沢・ミツバ岳～世附権現山。東京多摩支部・町田サロン山行。ミツマタ満開のミツバ岳へ、久し振りに権現山へ。

4／3 奥多摩セラピードウォーキング。東京多摩支部オリエンテーションで新入会員と歩く。

4／16 三頭山。支部による初心者登山教室第5期の第1回山行。登山日和の中で歩く。霞で富士山見えず。

本間

4／3 大山懇親山行（B班：イタツミ尾根）。

小島
なし

3／26 高崎 中央アルプス、千畳敷カール。乗越淨土経由、和合の頭を往復。家内と。八丁坂の下りはチヨヅと厳しかった。

岡田

3／30～31 谷川岳（天神尾根からオキの耳往復）。吉沢さんと2人。一日中快晴に恵まれ、半世紀ぶりの谷川岳登山を楽しめた。

4／3 大山懇親山行（A班：金毘羅尾根）。中村（雅）

3／17～22 中国・黄山。家内と二人（観光ツア）。

4／3 大山懇親山行（B班：イタツミ尾根）。

● 山行報告

4／3 大山懇親山行（B班・イタツミ尾根）。

● 山行計画

奥会津山行（案）

山行幹事 斎藤誠

日程

平成28年10月21日（金・前泊）

22日（土・志津倉山 3～4時間）

23日（日・博士山 5～6時間）

【宿泊候補の温泉】

ふるさと荘

福島県大沼郡三島町名入字上赤谷2437

電話・0241-521-2049

つきみが丘町民センター

福島県河沼郡柳津町字諫訪町甲61-2

電話・0241-421-2302

老沢温泉

福島県河沼郡柳津町五賀敷字老沢114

電話・0241-431-2014

昭和温泉しらかば荘

福島県大沼郡昭和村大字野尻字廻り戸1187

電話・0241-571-2585

【東京方面からのアプローチ】

鉄道・東北新幹線、磐越西線、只見線経由

自家用車・東北道 郡山J.C 磐越道 会津坂下
I.C下車 国道252 約4時間

アプローチを考えると、車があつた方が便利です。車で来られる方がいれば、重宝です。

【出席者】 佐薙、本間、小島、佐藤（久）、岡田、

中村（雅）、高崎（記録）

▽夏山の話になります。小島さん、中村（雅）さんは今年も南アルプスの南部を縦走される計画をお持ちです。去年の夏には、小屋に泊まつた夜中に「知恵熱？」に冒されてやむなく下山された苦い経験から、今年こそは！と気合いが入つています。

順調に推移すれば、古典的なルート（広河原から小渋川を下る、渡渉の多い沢筋）を下山に使われるそうです。また、若手ボランティアの参加を募集中だそうです。中村（雅）さんは、山岳部1年部員の時に当時3年部員の原・石田に引き連れられて、同じく1年部員の加藤・金成さんと一緒に登った経験があるそうで、ほぼ半世紀ぶりのトレースになります。南アルプス南部の山々に入るのは、その昔は、長いアプローチ、軌道・林道歩きが大変でした。青羅から聖沢を遡り聖平小屋で主稜線に出る樅島から奥西河内沢を遡行して荒川小屋に入る、大井川西俣を上がつて三伏峠に出るなど。どのルートを取つても初日は単調な山腹歩きでした。土産話が楽しみです。

なお、5月1日の大山にご一緒した小島さんの誘いを受けて本間さんが参加されることになりました。渡渉がある沢に入らない方針なので、小渋川を下るコースでなく、別ルートで下山される予定です。また、川名さんも参加検討中です。

△5月連休直後の好天を狙つて、岡田さん、中村（雅）さんは唐松岳から五竜岳を縦走する計画で出かけました。朝、バスで東京を出て、昼過ぎに白馬村に入り、ケーブルで上がつて八方山荘に泊まつて、翌日唐松・五竜と縦走して五竜小屋に宿泊、翌日に下山、の計画でした。ところが白馬ケーブルが強風のため動いていなかつた仕方なしに歩いて登ろうとして八方小屋に電話で状況を聞いたところ、風速30メートル以上の風が吹いているから歩くのも危険だと諭されて止む無く麓に宿（「岳栄館」）8200円／1泊2食）をとつた。翌日に唐松岳には登頂出来たものの五竜は諦めて下山されたそうです。天気予報を十分チェックして出かけたにも拘らず、強風には勝てなかつたそうです。

▽一橋山岳部の公式合宿としてスキー合宿は何時まで続いていたのかが話題になりました。岡田さんがリーダーで宮武さんを連れて八ヶ岳の黒百合平で行つたのが最後のスキー合宿のようです。その時の写真がH.U.H.A.Cのホームページに掲載されています。1966年1月とあります。その前の年は、谷川岳の天神平で行われ、1963年1月には蛭川リーダーの下で、妙高山・笛ヶ峰で行われています。杉野沢部落から小屋の持ち主と一緒に山小屋に入り、前進キャンプを作つて吹雪の中を御田原山経由で妙高山に登つた記憶があります。スキーを履いた冬・春の積雪期合宿は

昭和41年までは続いていたようです。

▽現役部員の中にも精力的に山登りを始めた学生メンバーが出てきました。その一例ですが、「ぐく最近、大倉から塔ノ岳までの大倉尾根（俗称「バカ尾根」）を2時間20分（昭栄社「丹沢」のコ一スタイルは3時間30分、吉備人出版「東丹沢登山詳細図」によれば3時間50分）で登り、丹沢山・蛭ヶ岳を越え、姫次・焼山経由で道志川に降りた3人組がいます。いわゆる「丹沢主脈」と呼ばれるルートで、普通は1泊2日のコースです。この話に触発されて、昔は大倉までのバスは無かったから、いきなり渋沢駅から歩いた、渋沢の駅前のバス停は今とは（小田急線の線路の）反対側にあった国道246号線はだだっ広い砂利道だった、駅名は「秦野」ではなくて「大秦野」だった、「東海大学前」は「大根」だった、など昔話に花が咲いたことでした。

▽白馬村（昔は信濃四ツ谷）には美味しい鰻を食わせる店があった、という話から、鰻に関する話になりました。学識豊かな方々の話の中で『ヤツメウナギ』は、体の断面が椿円形といった言わば「ウナギ型」の外見であるため、一般にはしばしばウナギと混同されがちで、和名にもそれが如実に表れている。ただし、頸口類に属すウナギ類とは無縁と考えても良い動物であり、生物学的特徴も食味もウナギとは全くかけ離れた動物である。（ウイキペディアより）という事でした。また、ついでに「ひつまぶし」の由来に関しては、「蒲

飯」が茶碗などに取り分けて食べる。ワサビや刻み海苔・刻みネギなどの薬味、出汁やお茶などが添えられる（wicki）という説があるそうです。

▽知る人ぞ知る（バ」「みね」のママ）「オミネ」さんから、故高崎治郎さん宅に花束が届いたそうです。もうかなりのお年ではないか、という話と、南竹さんの訃音が誰から「オミネ」さんに伝わったのだろうか、今は長崎県にお住まいではなろうか、という話がありました。心当たりのある方は？

▽今年の旧芦安村夜叉神崎周辺の登山道整備は5月28日・29日（土・日）に行われます。今回の整備作業が順調に推移すれば、創部90周年記念事業として頭初計画された、夜叉神トンネル東口（夜叉神崎～高谷山～カシバ平～桧尾崎～夜叉神トンネル東口に至る大周回路が完成することになります。今回は特に体力十分の学生さん、若手OBの皆さん等大勢の参加が期待されます。今からでも遅くはありませんので、参加できる方は小島さんにご連絡ください。

源次郎尾根を登るつもりが、取付き点不明。政次郎を登る。岡田さん、宮武さん他と。
5／1 大山・コンビラ尾根・日向薬師。小島さんと。

小島

5／1 大山・コンビラ尾根・日向薬師。本間さんと。

高崎

5／3 高見石。麦草峠から丸山、高見石、白駒池経由で麦草峠へ回遊。

岡田

5／5～7 唐松岳（八方尾根から往復）。中村（雅）さんと。

中村（雅）

5／1 御坂山塊（里岳、節刀ヶ岳）。三ツ峠登山口（御坂峠～黒岳～節刀ヶ岳～河口湖）。藤原さん、大矢（3年）君と3人。

▽私事ですが今号を最後に会報幹事を岡田健志会員に替つて頂きます。私は有賀先輩から会報幹事を引き継ぎました。今回、有賀先輩が寄稿してくれました。巡り合せですね。躊躇される有賀さんに無理を言つたのですが素敵な松本報告が届きました。会報幹事のお願いを沢山の先輩後輩に受けて頂き今まで会報が続きました。有難うございました。

今号も有賀さんの報告を初め、こだわり登山を続ける中村（雅）さん、藤原さんの報告があり、加えて佐藤（周）さん、外池さん、田形さん、宗像さんの中堅・若手からの寄稿があり、会員の山への思いが引き継がれていることが解る会報になりました。この事は学

生さんの報告にも流れていて嬉しくなりました。藤原さん、中村（雅）さんの学生指導の賜物ですね。今後も宜しくお願ひします。
針葉樹会は山仲間の会であり。いろいろの形で山を愛し続ける会員の思いを交換する場であつて欲しいと思っています。高かろうが低かろうが山を歩き、山を愛で、ぜひご寄稿を会員の皆様にお願いします。

（小島）

▽小島さん、会報幹事どうも、苦労さまでした。私が卒業して間もない頃、岡田さんから会報の編集を引き継ぎましたが、次からまた一緒に担当することになりこれまた巡り合わせです。

山仕事は相変わらず続けており、木に登るのも慣れています。先日、奥多摩にある越沢バットレスの上の杉林で枝打ちをしたとき、岩壁を覗き込んで、学生時代よくこんなところを登つたなど今さらながらびびりました。つい数週間前にもけが人をへりが吊り上げ救助したところです。わさび栽培のほうもまずまずの出来で、今シーズンは三千本ほど苗を植えます。

▽小島さんが会報幹事を退任されると知り、動搖しています。編集会議や発送作業後、「ついでに」飲むとき、幹事3人で熱燄の2合とつくりをバンバンあけたときもありましたね。

ときには仕事の悩みも聞いていただきました。難しいと思われる課題について、ビジョンを立て力強く実行していく、その背中から多くを学ばせていただきました。長い間、本当にありがとうございました。

（川名）

■会費納入のお願い

平成27年度（27年6月～28年5月）の会費納入をお願いいたします。

会費（普通会費）は卒業年次に関係なく、一律5000円です。（ただし、昭和29年度以前卒業の会員は従来通り会費免除となります）。また、普通会費のほかに、期間を問わず贊助会費を募集しております。贊助会費は一口1000円で、口数は任意です。

近年、学生部員の増加に伴い山岳部への支援強化の必要性が高まっていますので、その資金手当てのためにも、贊助会費へのご協力をお願い申し上げます。

◎会費納入先◎

三菱東京UFJ銀行 赤坂支店

口座名 針葉樹会
口座番号 普通4825647

*振込の際、適用欄にお名前と卒年次をご記入ください。

会計幹事 佐藤久尚